

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	ヤフー北九州データセンター9号棟増築工事	BEE	1	BEEランク	B+	★★★
------	----------------------	-----	---	--------	----	-----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [*] /満点	取組み度	評価	
1 循環型社会への貢献	3.7 /5			
2 地球温暖化対策の推進	##### /5		#DIV/0!	
3 豊かな自然環境の確保	2.0 /5			
4 高齢社会への対応	##### /5		#DIV/0!	
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4 点以上	 ふつう 3 点以上	 がんばろう 3 点未満

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.4.01)
1 循環型社会への貢献	スコア平均 3.7
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 スコア 3 Q2/ 3 対応性・更新性 スコア 4.8
<自由記述>	<自由記述>
2 地球温暖化対策の推進	スコア平均 #DIV/0!
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水 スコア
<自由記述>	<自由記述>
3 豊かな自然環境の確保	スコア平均 2.0
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 スコア 2 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善 スコア 3
<自由記述>	<自由記述>
4 高齢社会への対応	スコア平均 #DIV/0!
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	主な指標 建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級 0 建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅:BEIm値、住宅: - 0 外構緑化指数 5 % 建物緑化指数 0 %
<自由記述>	



: 入力欄



: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ヤフー北九州データセンター9号棟	階数	地上2F
建設地	福岡県北九州市	構造	S造
用途地域	工業専用地域、防火地域指定なし	平均居住人員	0 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年5月 予定	評価の実施日	2022年4月26日
敷地面積	66,099 m ²	作成者	轟夏
建築面積	6,684 m ²	確認日	2022年4月26日
延床面積	12,275 m ²	確認者	〇〇〇
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	
BEE = 1.0 ★★★★☆		30%: ★★★★★ 60%: ★★★★☆ 80%: ★★★☆ 100%: ★★☆ 100%超: ☆	
S: ★★★★★ A: ★★★★☆ B+: ★★★☆ B: ★★☆ C: ★☆		標準計算 ■建設 ■修繕・更新・解体 ■運用 ■オンライン ■オフサイト ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+	
		<p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフケーブルCO2排出量の目安で示したものです。</p>	
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)			
2-4 中項目の評価(バーチャート)		Q のスコア = 2.7 Q1 室内環境 Q1のスコア = 0.0 Q2 サービス性能 Q2のスコア = 4.2 Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 1.7 LR のスコア = 3.3 LR1 エネルギー LR1のスコア = 0.0 LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.4 LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2 	
3 設計上の配慮事項			
総合 計画地の特性を活かし、PUEの低減を目指し、ラック数の多く確保できる計画とする。		その他	
Q1 室内環境 メンテナンス作業に対する照度環境を確保した計画。		Q2 サービス性能 将来の余剰スペースを確保したゆとりのある平面断面計画。	
LR1 エネルギー 外気高度利用による徹底したエネルギー消費削減		LR2 資源・マテリアル N2ガス消火を採用し、汚染物質含有材料の使用を回避した計画	
LR3 敷地外環境 燃焼機器を一切使用せず、大気汚染へ配慮した計画			

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフケーブルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフケーブルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
ヤフー北九州データセンター9号棟 増築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
配慮項目							
Q 建築物の環境品質							2.7
Q1 室内環境				-	-	-	-
1 音環境			-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル		-	-	-	-	-	-
1.2 遮音		-	-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	3.0	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	3.0	-	-	-	-
1.3 吸音		-	-	-	-	-	-
2 溫熱環境			-	-	-	-	-
2.1 室温制御		-	-	-	-	-	-
1 室温		-	-	-	-	-	-
2 外皮性能		-	-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性		-	-	-	3.0	-	-
2.2 湿度制御		-	-	-	-	-	-
2.3 空調方式		-	-	-	-	-	-
3 光・視環境			-	-	-	-	-
3.1 昼光利用		-	-	-	-	-	-
1 昼光率		-	-	-	-	-	-
2 方位別開口		-	-	3.0	-	-	-
3 昼光利用設備		-	-	3.0	-	-	-
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-	-
1 昼光制御		-	-	-	3.0	-	-
3.3 照度		-	-	3.0	-	-	-
3.4 照明制御		-	-	3.0	-	-	-
4 空気質環境			-	-	-	-	-
4.1 発生源対策		-	-	-	-	-	-
1 化学汚染物質		-	-	-	3.0	-	-
4.2 換気		-	-	-	-	-	-
1 換気量		-	-	-	3.0	-	-
2 自然換気性能		-	-	-	3.0	-	-
3 取り入れ外気への配慮		-	-	-	3.0	-	-
4.3 運用管理		-	-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御		-	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能			-	0.43	-	-	4.2
1 機能性			-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	-	-
1 広さ・収納性		-	-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	-	-
3 パリアフリー計画		-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-	-
1 広さ感・景観		-	-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	-	-
3 内装計画		-	-	-	1.0	-	-
1.3 維持管理		-	-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性			3.6	0.50	-	-	3.6
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.8	0.50	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-	4.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能		-	3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数			3.0	0.30	-	-	-
1 転体材料の耐用年数		-	3.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		30年以上	5.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		20年以上	5.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		冷水配管は配管用炭素鋼鋼管(白)を使用	#####	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性			4.2	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備		-	4.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備		-	3.0	0.20	-	-	-
3 電気設備		-	5.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法		耐震クラス	5.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備		2ルートからの引き込み	4.0	0.20	-	-	-

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	1 階高のゆとり	階高5.0m	4.8	0.50	-	-	4.8
		2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.097	5.0	0.30	-	-	
	3.2 荷重のゆとり		床耐荷重4500N/m ² 以上	5.0	0.60	3.0	-	
	3.3 設備の更新性			5.0	0.40	3.0	-	
		1 空調配管の更新性	構造材・仕上げ材を痛めず更新・修繕可能	4.0	0.20	-	-	
		2 給排水管の更新性	構造材・仕上げ材を痛めず更新・修繕可能	5.0	0.20	-	-	
		3 電気配線の更新性	構造材・仕上げ材を痛めず更新・修繕可能	5.0	0.10	-	-	
		4 通信配線の更新性	構造材・仕上げ材を痛めず更新・修繕可能	5.0	0.10	-	-	
		5 設備機器の更新性	構造材・仕上げ材を痛めず更新・修繕可能	5.0	0.20	-	-	
		6 バックアップスペースの確保	将来対応スペース、バックアップスペースの確保	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出				-	1.0	0.30	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				-	2.0	0.40	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				-	2.0	0.30	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				-	2.0	0.50	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	2.0	0.50	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー				-	-	-	-	-
1 建物外皮の熱負荷抑制				-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化				-	-	-	-	-
4 効率的運用				-	-	-	-	-
集合住宅以外の評価				-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			年間エネルギー消費量の目標値を設定	-	-	-	-	
集合住宅の評価				-	3.0	-	-	
4.1 モニタリング				-	3.0	-	-	
4.2 運用管理体制				-	3.0	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.50	-	-	3.4
1 水資源保護				-	3.0	0.20	-	3.0
1.1 節水				-	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				-	3.0	1.00	-	
1 雨水利用システム導入の有無				-	3.0	0.70	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無				-	3.0	0.30	-	
2 非再生性資源の使用量削減				-	3.3	0.60	-	3.3
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.11	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.22	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		高炉セメント:杭に使用		-	5.0	0.22	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				-	1.0	0.22	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				-	5.0	0.22	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				-	4.3	0.20	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				-	5.0	0.30	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				-	4.0	0.70	-	
1 消火剤		N2消火と使用している。		-	4.0	0.33	-	
2 発泡剤(断熱材等)				-	5.0	0.33	-	
3 冷媒		R32冷媒の空冷チラーを使用する。		-	3.0	0.33	-	
LR3 敷地外環境				-	0.50	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮				-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮				-	3.2	0.50	-	3.2
2.1 大気汚染防止				-	5.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				-	2.0	0.25	-	
1 雨水排水負荷低減				-	-	-	-	
2 污水処理負荷抑制				-	3.0	0.33	-	
3 交通負荷抑制				-	2.0	0.33	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				-	1.0	0.33	-	
3 周辺環境への配慮				-	3.2	0.50	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				-	3.0	0.40	-	
1 騒音				-	3.0	1.00	-	
2 振動				-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				-	3.0	0.40	-	
1 風害の抑制				-	-	-	-	
2 砂塵の抑制				-	3.0	-	-	
3 日照阻害の抑制				-	3.0	1.00	-	
3.3 光害の抑制			広告物を設置しない	-	4.0	0.20	-	
			ガラスなど、高反射の材料の不使用	-	4.0	0.70	-	
				-	4.0	0.30	-	